

希望をつなぐ支援を



Remember HOPE



Tomorrow HOPE



2025年度活動レポート

(令和7年度事業報告書)

2025年(令和7年)4月1日～2026年(令和8年)3月31日

一般財団法人 日本アムウェイ財団

代表理事メッセージ

2025年度、日本アムウェイ財団にとって、これまでの歩みを振り返るとともに、未来に向けた新たな可能性を見つめる一年となりました。

東日本大震災の復興支援から始まった Remember HOPE は、今年、野田村および相馬のアムウェイハウス開所10周年という節目を迎えました。当初「つながりを取り戻す場」として始まった施設が、今では地域の皆さまに親しまれ、人と人をつなぐ「地域の資産」へと育っていることに、支援を続ける意義を改めて感じています。

また、Tomorrow HOPE 奨学金プログラムでは、多くの学生たちが夢に向かって歩み続けています。認定式や交流会で見せる前向きな姿に、私たち自身も大きな希望をいただきました。人の可能性を育むことの大切さを、改めて実感した一年でもありました。

一方で、地域社会を取り巻く課題は、この10年で大きく変化しています。人口減少や高齢化、地域コミュニティの縮小、担い手不足、そして地域産業の持続可能性など、被災地支援を通じて新たな課題も見えてきました。

こうした背景を受け、財団では今年度、新たな社会貢献の可能性についても検討を進めました。アムウェイが長年培ってきた植物・農業・栄養・健康分野の知見を活かしながら、本社の農業専門家や外部有識者との対話を通じて、農福連携や持続可能な農業支援の可能性を探索しています。Remember HOPE や Tomorrow HOPE を通じて築いてきた経験やネットワーク、そしてアムウェイならではの知見を活かしながら、地域社会の未来に真に役立つ取り組みを育てていきたいと考えています。

日本アムウェイ財団は、これからも地域の皆さまと共に未来を育む存在でありたいと願っています。

この一年、活動を支えてくださった寄付者の皆さま、地域の皆さま、関係者の皆さまに、心より感謝申し上げます。皆さまのご支援が、一人ひとり、そして地域の未来につながっています。

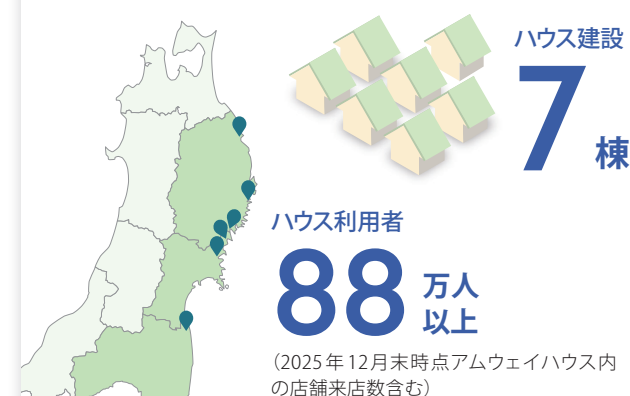
一般財団法人 日本アムウェイ財団
代表理事 佟 嘉楓

Remember HOPE

東日本大震災で甚大な被害にあった
3県（岩手、宮城、福島）のコミュニティ再生のため、
人と人とのつながりを取り戻す「場」として
ハウスを建設し、地域の活動をサポートしてきました。
地元行政、地域団体や地域住民と連携し、
ボランティアと資金の両面から支援を続けています。

コミュニティ再生支援

アムウェイハウスを中心にさまざまなイベントやプログラムを支援しました。施設の利用者は88万人を超え、地元根付いたコミュニティの場となっています。



Tomorrow HOPE

2022年に開始した
「Tomorrow HOPE プロジェクト」では、
こどもの貧困と心身の健康を支援することを目的に、
経済的理由により進学が困難な子どもたちに
奨学金を提供してきました。

健康支援 ヘルス＆ウェルネス プログラム

子どもたちの心身の健康を
支援するための取り組みを
していきます。



教育支援 Tomorrow HOPE 奨学金プログラム

経済的な理由で大学や専門学校に進学できない
学生に、返済義務のない給付型奨学金を提供しま
す。他の奨学金と併用可能で、大学だけでなく専
門学校も対象。入学から卒業までの間、夢に向か
う学生たちをサポートします。

次の社会課題への可能性の探索

震災復興支援から始まった Remember HOPE。

地域と共に歩み続ける中で、私たちは新たな社会課題とも向き合うようになりました。

人口減少、高齢化、担い手不足、地域産業の維持——。地域の未来を支えるために、今、本当に必要な支援とは何か。

こうした背景を受け、日本アムウェイ財団では2025年度、地域の持続可能性につながる

新たな社会貢献の可能性について検討を進めました。その一つとして、持続可能な農業や農福連携に着目し、
本社の農業専門家や外部有識者との対話を通じて、地域農業支援、人材育成、学術連携などの可能性を模索しています。

女性活躍
推進

農福連携

持続可能な
農業支援

地域
コミュニティ
活性化

人材育成・
学びの機会

環境保全・
啓発

この1年のあゆみ

2025

5月

南三陸町長対談ムービー公開



4月

2025年度 Tomorrow HOPE 奨学生認定式・交流会



7月

『TOMODACHI 日本アムウェイ財団
東北ミライリーダー・プログラム 2025』
気仙沼の高校生たち
最終発表会をアムウェイハウスで実施



8月

大槌アムウェイハウス
外装の改修工事を完了



11月

野田村アムウェイハウス
10周年イベント開催



12月

『TOHOKU ウェルネス DAY』
RememberHOPE マルシェに出店サポート

2026

3月

「TOMODACHI
Women's Empowerment Program 2026」
学生支援決定



若い女性たちがグローバルな視点やリーダーシッププログラム。東北枠として女子大学生3名を支援を決定。

2月

相馬アムウェイハウス 10周年イベント開催



3月

陸前高田アムウェイハウス
梁やスロープなどの気仙沼杉の
補修工事を完了

Tomorrow HOPE 支援の輪が広がる

2025年度、Tomorrow HOPE では、新たに10名の奨学生を迎え、計33名の学生を支援しました。応募者は全国各地に広がり、特にひとり親家庭や両親のいない家庭からの応募も多く、教育支援への高いニーズが改めて見えてきました。学びたいという気持ちがあっても、環境によって選択肢が限られてしまう若者たちがいます。Tomorrow HOPE は、一人ひとりの可能性に寄り添いながら、未来への挑戦を支えています。

2025年
新規認定

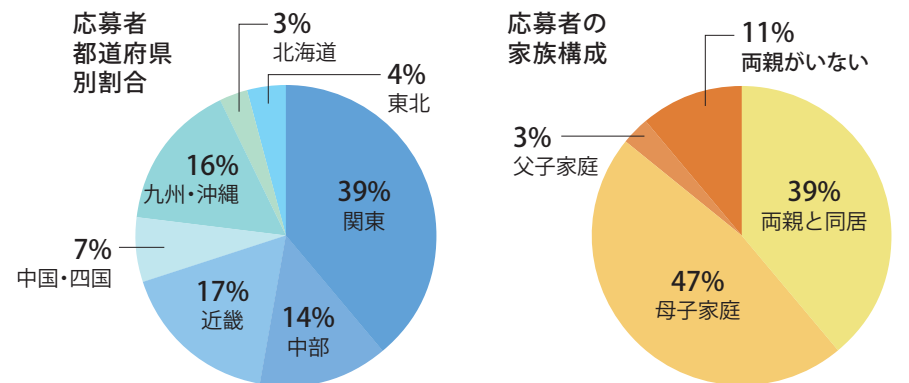
10名

支援
奨学生数

計 33名

2025年度応募状況

2025年度も全国から多くの応募がありました。

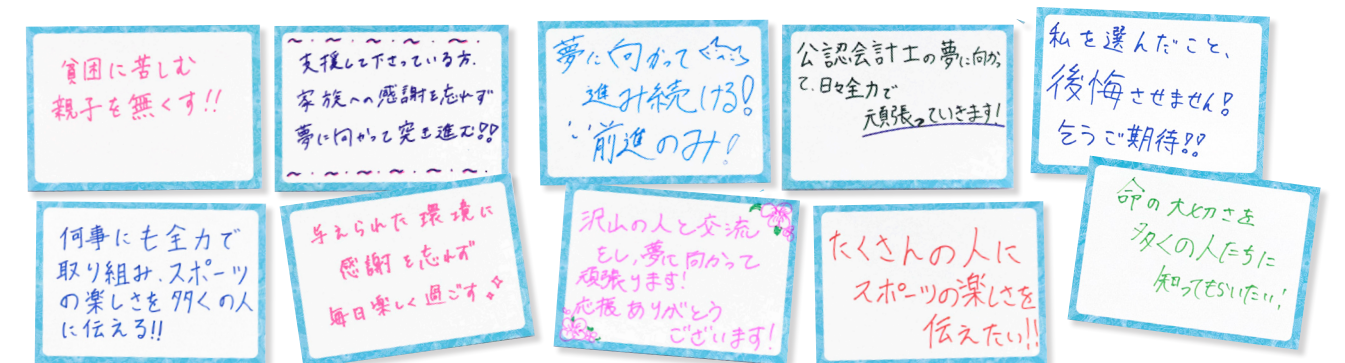


2025年度 Tomorrow HOPE 認定式・交流会



Tomorrow HOPE では、奨学金の提供に加え、交流会やワークショップを通じて、奨学生同士がつながり、互いに刺激を受けながら成長できる機会づくりも大切にしています。2025年度の認定式・交流会では、新たな奨学生たちが夢や目標を語り、先輩奨学生との交流を通じて、将来への希望や学びへの意欲を深めました。「自分ひとりではない」そう感じられる仲間との出会いもこのプログラムの大きな価値の一つです。

奨学生の皆さんからメッセージ



Remember HOPE ともに歩み続ける

東日本大震災の復興支援から始まった Remember HOPE。
地域に寄り添いながら、人と人とのつながりを育み、未来へ続くコミュニティづくりを支えてきました。
震災から14年。アムウェイハウスは今も、地域の人々が集い、支え合う場所として歩み続けています。

南三陸 佐藤町長と共に振り返った 『南三陸町が歩んだ14年の軌跡』ムービーを公開

Remember HOPE 復興支援プロジェクト第1棟目のアムウェイハウスが建設された宮城県南三陸町では、住まいの再建、産業の立て直し、公共施設、アムウェイハウスを含む交流拠点の整備などの復興事業が終わり、「まちの賑わいづくり」に向けた新たな取り組みがスタートしています。復興事業を終えた南三陸町で、南三陸 佐藤町長と日本アムウェイ財団代表理事 佟（トウ）が震災から復興までを振り返り、そして、これからの未来へ向けた展望を語り合いました。



次世代を担う人々の挑戦を応援する 『TOMODACHI 日本アムウェイ財団 東北ミライリーダー・プログラム 2025』を気仙沼で実施

2019年に宮城県南三陸町、2024年には岩手県陸前高田市で実施し、2025年、宮城県気仙沼市で3回目の開催となった「TOMODACHI 日本アムウェイ財団東北ミライリーダー・プログラム」。本プロジェクトは、東北の高校生を対象に観光分野に特化した、まちづくりを学ぶための事前研修・渡米研修・事後研修・発表会の4部構成からなる約7カ月のプログラムです。一般公募で選ばれた15名の高校生たちは、事前研修で気仙沼の自然の魅力や漁業産業、新しい産業の創出への課題を学び、春休みの10日間、ニューヨークやワシントン D.C. を訪問する米国研修に参加。観光、ホスピタリティ、まちの活性化を目指す様々な活動やリーダーシップについて体験しました。そして、7月27日、気仙沼アムウェイハウス 拓（ヒラケル）で最終報告会を開催。高校生たちが考えた数々のプランが発表されました。



野田村および相馬アムウェイハウスで10周年をお祝い

2025年度、野田村および相馬アムウェイハウスは開所10周年という節目を迎えました。震災後、「地域のために何ができるか」という想いから始まったアムウェイハウスは、今では地域住民、ボランティアなど多くの人が集う交流拠点として親しまれています。野田村では開所時に埋めたタイムカプセルを掘り起こし、地域の皆さまとともに10年の歩みを振り返りました。相馬でも利用者や支援者が集い、これまでのつながりを祝う節目のイベントが開催されました。



皆さまが安心して集うために環境づくりへの支援を継続

Remember HOPE では施設を「つくる」だけではなく、その後も地域と共に歩み続けることを大切にしています。2025年度は、大槌アムウェイハウスでは、海風などで劣化していた屋根や壁の木製外装を洗浄し、塗装や一部張り替えを行いました。

た。陸前高田アムウェイハウスでは、1月中旬から3月中旬にかけて、梁やスロープなどの木材の割れや表面の汚れ対応などの気仙沼杉のメンテナンスを行いました。これからも地域の皆さまが安心して集える環境づくりを継続していきます。



東北のさらなる元気を応援！ 『TOHOKU ウェルネス DAY』

12月6日、仙台国際センター展示棟にて開催された、河北新報社営業局主催『美味しい×体験×学びの一日 TOHOKU ウェルネス DAY』に日本アムウェイ合同会社が特別協賛しました。日本アムウェイ財団は、東北の魅力が詰まったグルメコーナー『Remember HOPE マルシェ』へアムウェイハウス建設地からの出店をサポートしました。



〈2025年度の寄付金と活動〉

2025年4月1日～2026年3月31日

2025年度も多くのご寄付、ご支援をいただきました。

収支報告の詳細は、<https://csr.amway.co.jp/ajf/> 上に開示しております。

収入

(円)

日本アムウェイ 10円基金対象製品による寄付	82,636,336
日本アムウェイ ABO による My 月支援金	70,918,000
その他	7,958,220
受取寄付金 合計	161,512,556
その他収入	1,011,194
収入合計	162,523,750

主な支出・活動

(円)

Remember HOPE	43,006,013
Tomorrow HOPE	17,993,777
支援活動の発信・プロジェクト紹介	17,823,300
寄付者とのコミュニケーション・活動報告	10,373,646
その他管理・運営費	4,478,628
活動支出合計	93,675,364

収支差額	68,848,386
------	------------

※渋谷区に寄付する予定の災害時トイレトラックの譲渡時期の変更に伴い、当年度および過年度に支出した計 28.6 百万円について、譲渡完了まで一時的に資産として計上しています。

*収支差額は、翌年度以降の財団の支援活動に活用します。

財団概要

2026年3月31日現在

所在地 〒150-0042 東京都渋谷区宇田川町7-1
日本アムウェイ合同会社内

設立日 2013年10月4日

代表理事 佟嘉楓

評議員会長 イリーナ・メンシコヴァ

評議員 池部 カンナ

評議員 縄 正美

監事 上田 寛一

理事 岩城 淳子

理事 青木 高



一般財団法人 日本アムウェイ財団の
詳細はこちらをご覧ください。

主な支援方法

皆さまからお預かりした寄付金は、一般財団法人日本アムウェイ財団に寄付され、「Tomorrow HOPE プロジェクト」と「Remember HOPE プロジェクト」をはじめ財団の目的とする活動を支援するために活用させていただきます。

銀行振込みで支援する

三菱 UFJ 銀行

店名：五反田駅前支店（店番615）

口座：普通 3037992

口座名義：(ザイ)ニホンアムウェイ ザイダン

※振込手数料は送金者のご負担となります点、ご了承ください。※当募金は寄付金控除の対象とはなりませんのでご了承ください。

全国のアムウェイ・プラザ(店舗)の募金箱



ピンバッジ購入で支援する



Tomorrow HOPE ピンバッジの購入で1口500円が募金となります。全国のアムウェイ・プラザでもお求めいただけます。

製品購入で支援する



フード製品（ギフト製品含む）・ペット製品の購入により10円、これに日本アムウェイが同額をマッチングし、計20円を寄付します。ABO/ プライムカスタマーの方のご購入が対象となります。

継続的に支援する



「My 月支援金」は1口1000円で継続支援ができる募金方法です。ABO/ プライムカスタマーの皆さんがお申し込みいただけます。

